

新年のごあいさつを申し上げます

皆様、お元気で新しい年をお迎えのことと存じます。早いもので開発教育協議会が結成されてから、これで7回めのお正月になります。この間の開発教育活動の歩みが遅々としていたものか、思ったよりも早いものなのか、意見の分かれるところでしょうが、今年もまた、それぞれの場で、それぞれのペースで、開発教育に取り組みたいものです。一年間のご健勝を祈念いたします。

総会は5月13日東京で
研究集会は8月26/27日岡山で
主要日程決まる

12月1日の理事会とその後の事務局運営会議で、今年は総会を5月13日(土)に東京で、研究集会は8月の26,27の両日にわたって岡山で開くことが確認された。昨年夏の金沢における研究集会のあと、広島と岡山の関係者の間で話し合われて決定をみたもの。岡山ではすでに実行委員会結成の動きが始まり、例年になく早いペースで準備態勢づくりが進んでいる。担当者は5月の総会までには参加の呼びかけが具体的にできるようにしたいと張り切っている。

新しい事務局運営体制へ

開発教育情報センターの開設に伴い、目に見えて増えてきた作業量に対処するための方策がこれまでも相談されてきたが、当分の間という条件つきで、従来の事務局運営会議メンバーに理事を組み合わせた小委

員会方式で運営に当ることとした。正式には新年度からということになるが、すでに部分的には動き始めている。小委員会の構成は次の通り(名前は50音順,*は理事)

機関誌 = 北村暁晴, 佐々木礼子,
寺尾明人, 松下俱子*

研究集会 = 雨森孝悦, 肥塚章子,
湊明弘, 茂呂雅之*
ほかに岡山から田中治彦

情報センター =
赤井充也*, 赤石和則*,
阿久澤真理子, 川上玲子,
田中義信, 四本健二

新規企画 = 上原美奈子, 白井香里*,
太田弘*, 重田康博
山崎順子, 山西優二

事務局 = 石井節子, 一宮京子,
金谷敏郎*

協議会の監事が代わりました

開発教育協議会の団体会員で、協議会に監事を派遣している立正佼成会では、このほど内部の組織改革を行い、青年部に新たに青年開発課をおき、開発教育関係のこと

はその課が担当することになった。それに
応じて派遣監事も交替することになり、こ
れまでの小谷田さんに代わって、青年開発
課課長の長本晃一さんが新たに監事に任命
された。去る12月1日の協議会理事会はそ
の報告を受け、了承した。

開発教育推進セミナー 京都で開催

開発教育協議会は（財）関西セミナーハ
ウス（京都）と協力し「開発教育を推進す
るセミナー」を2月から年4回の予定で開
催する。主として中・高校の教師を対象に、
教科学習に開発教育の内容を盛り込むには
どうすればよいか、そのための教材はどう
するか、どうすれば教材開発への道が開か
れるか、などを研究討議しようというもの。
日程をおよそ次のように定めている。

- 第1回 2月18日（土）－19日（日）
- 第2回 6月3日（土）－4日（日）
- 第3回 9月9日（土）－10日（日）
- 第4回 11月4日（土）－5日（日）

詳しいことの間い合わせは、京都市左京
台区一乗寺竹ノ内町23 関西セミナーハウス
（平田、上田さん）まで 電話075-711-2115

事務所が変わりました
青年海外協力協会

開発教育協議会の団体会員である（社）
青年海外協力協会は、昨年9月末に、前
とおなじビル内であるが、より広いスペ
ースの新しい事務所へ移転した。新しい住所
表示は次の通り。

東京都港区南麻布5丁目10番 24号
第二佐野ビル702号 電話03-446-3651

論文などを募集しています
国際協力推進協会

おなじく団体会員である（財）国際協力
推進協会では、本年度の論文、研究・試験
プロジェクトを募集している。開発途上国
への国際協力に関する理論的、実証的研究
や政策研究、あるいは国際協力についての
理解促進に関する研究などが対象で、いず
れも締切りは本年3月15日。詳しいことの
間い合わせは、東京都港区虎の門1-23-7
第23森ビル（財）国際協力推進協会（電話
03-504-2085）まで。

UNHCR 駐日事務所
難民問題の教材制作を準備中

今、世界には故郷を離れざるをえなくさ
れた難民が1,200万人もいて、一国か
ら出ている難民の数をもっとも多いのは、
アフガニスタンで500万に達するという。

ふつう、戦乱や政争、宗教や人種差別な
どから免れるために故郷を離れざるをえな
くされている人々を難民というが、その実
態は日本では案外に知られていない。難民
というと、飢餓を避けて逃げてきた人々と
かやせている人たちなどという誤解やステ
レオタイプのイメージを持つ人も多く、ま
た日本は受け入れている難民の数は千人に
も満たず（1987年初頭）、難民問題への取
り組みがもっとも遅れている国である。

東京の青山で難民問題にかかわっている
UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）では、
どうすればもっと多くの日本人に難民の姿
を正しく理解して、援助に参加してもらえ
るだろうかと悩んでいるが、このほど中・
高校生を対象とする難民問題理解のための

教材づくりに乗り出すことにした。

作ろうとしているのは印刷物、写真、ポスターなどから構成されるキット教材で、世界ですでに使われている教材の翻訳も含み、できれば4月ごろには全国に配布するようになりたいとしている。

この教材のことや難民問題についての問い合わせは、東京都港区南青山 1-1-1新青山ビル西館19階 UNHCR駐日事務所まで。

イギリスの 'One World Week'

イギリスでは毎年、10月の末に1週間わたって 'One World Week' が全国各地で開かれている。昨年は10月23日から30日までの1週間がそうだった。

もともとは、キリスト教の教会が海外協力に対する関心を高めるために始めたキャンペーンだったが、今では多くの開発協力NGOや青少年グループが参加して、幅広い動きになっている。各地に自主的な One World Week Officeが設けられ、全国的に設定される共通テーマのもとに、各地域ごとに音楽会や街頭ショー、ゲーム大会、たべもの・のみものの会、国際交流会など、さまざまな行事が展開される。今年のテーマは「惑星に平和を築こう」であった。

地球でこのキャンペーンをやってみようという人のために、ひとつの指針が示されている。それは

- 1)この活動に誰を誘って加わってもらおうとするのかをあらかじめ決めて、確実にその人たちにアプローチすること(断わりにくい状況をつくっておくこと)
- 2)できるだけ多くの人々が積極的に参加できるようにすること
- 3)なにか少しでも新しいことをすること(それであなたの得意なことをみんなに

披露できるわけだ)

4)楽しいことをおやりなさい

5)このあとになにをするのかを考えておきなさい

これは1週間のキャンペーンであること、しかし同時に物事の見方の新しい始まりであることを、肝に銘じておきなさいとなっている。(イギリス Oxfamの The Edge, '88 Autumn号から)

世銀の'88世界開発報告

世界銀行は昨年7月に1988年の世界開発報告を発表した。英語、フランス語、スペイン語版だけで、日本語版もそのうちに刊行されるとあったが、まだ出版されていないようだ。

今年の開発報告は、第1部で世界経済の動向を分析し、第2部で開発における公財政の問題を取り上げている。動向分析によると、世界経済は短期的には楽観論があるが、中期的には見通しがはっきりしないと指摘したうえで、工業国にも発展途上国にも政策の変更を求め、工業国で国内総生産実質年率2.6%、発展途上国で3.6%が可能なはずだとしている。

そのためには、アメリカ合衆国が財政赤字を克服して利率を下げることで、日本が構造改革によって国内需要を高め続け、西ドイツも同じ政策をとること、アジアの新工業国(NIES)が国内需要を高め、国内生産者保護施策を緩める対ドル換算レートを見直すこと、が実現されなければならないとしている。そして発展途上国も国内施策を改め、とくに対外債務を減らしていく努力がなされなければならないと指摘したうえで、世界的にそういう協調的政策がとられなければ、多くの発展途上国の国民所得は停滞

したままだろうし、世界不況の恐れもあるとしている。

この開発報告は、ほかに多くの統計表や図を掲載し、世界の現状を見るのに便利である。日本語版が出版されたら、一読をおすすめする。

心強い思いをしました
地理教師の開発教育への取り組み
神奈川県太田さんから

8月半ばにオーストラリアのブリスベンで開かれた国際地理学連合の会議に参加しました。地理教育のシンポジウムではオーストラリアの開発教育センター、地理教師の会が開発教育にたいへん熱心で、開発教育の教材、NGO 資料も展示されて、地理教師が開発教育に大きな関心をもっていることがうかがえました。

その後、イギリスの開発教育カリキュラムをみるために、10日間ほどロンドンに行ってきました。イギリスの開発教育センター(DEC)の整備は群を抜き、全国で55カ所、その中でもバーミンガム、リーズ、マンチェスターは自らの教材開発も含めて非常に活発です。バーミンガムのセンターを見に行ってきました。ロンドンの開発教育センター全国連盟(NADEC)でイギリスの開発教育の現状を教えてくださいました。(後略)

(注)太田さんには機関誌でもっと詳しくレポートして下さるようお願いしています。

国際交流の研究集会を開きます
国立婦人教育会館

国立婦人教育会館は2月17(金)、18(土)の両日、「女性と国際交流」という主題でア

ジアからの参加者を含めて研究集会を開催する。分科会での討議は、女性の人権、海外生活体験、途上国の開発と女性、在日外国人との交流、地域の国際交流、などについてなされることとなっている。参加者は国際交流に関心をもつ婦人グループの会員などとなっているが、詳しくは埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728 国立婦人教育会館情報交流課国際交流係(電話0493-62-6711)にお問い合わせを。

「アジアが未来を考える」ちばフォーラム
第2回を開きます

(財)京葉教育文化センターは6月2日(金)から11日(日)まで第2回「アジアが未来を考える」ちばフォーラムを開催する予定で準備を始めた。アジア各国からは約20名の参加を予定し、アジアで民衆の生存、生活権確保のために働いている人々の間の経験交流と連帯を図ろうというねらいで、国内からは市民グループからの参加を期待している。

詳細はまだ決っていないようであるが、関心のある向きは、千葉県市原市辰巳台東3-11京葉教育文化センター(電話0436-74-2151)にお問い合わせを。

絵はがき発売中

熱帯林行動ネットワーク(JATAN)では美しい絵はがきを制作し熱帯林問題をつたえるために、広い活用を呼びかけている。5枚1セットで300円。問い合わせは、東京都渋谷区桜丘9-17 親和ビル501号の同ネットワーク(電話03-770-6308)まで。Tシャツもあります。

事務局だより

協議会発行の機関誌「開発教育」は会員を中心に700部を作成、配布しているが、このほど第14号を入校した。内容は、昨年夏に金沢市で開催した全国研究集会のまとめ課題の整理が中心となっている。2月上旬には完成の予定。

協議会では「開発教育の広がり求めて」をテーマに2月4日（土）午後、座談会を開く。平和教育、人権教育、異文化理解教育など、国際的視野をもつ教育がたくさんあるなかで、開発教育の扱うイシュー、実現したい目標、方法論的課題などの独自性（共通性を含め）を明らかにしたいと考えている。

出席者は、岡本三夫（四国学院大学）、雨森孝悦（日本国際交流センター）、金谷敏郎（国立教育研究所）、米田伸次（帝塚山学院泉ヶ丘高校）の各氏。内容は機関誌第15号に収録の予定。

「Fukui国際交流のつどい‘88」が、昨年11月26、27日の両日、福井県民会館を会場に盛大に開催された。初日にはアジア保健研修所の池住義憲氏が「共に生きる世界の中で」と題して講演。開発問題への取り組みの重要性を強調した。

本協議会はこの企画（主催・国際文化交流センターほか）を支援し、あわせて開発教育に関する展示コーナーを設けて教材や資料などの紹介に努めた。

協議会事務局宛たくさんの方の年賀状をいただき、ありがとうございます。ことしもどうかよろしくご支援、ご指導のほどお願い申し上げます。

身近なところの開発教育の実践や関係者の交流のニュースなど、お知らせください。

新人・継続会員

(10-11月、敬称略)

<新人会員>

青森	山前 雄義	
宮城	熱海恵美子	
福島	村田富美恵	
茨城	渋谷 恵	寿 茂
群馬	新井 常夫	
埼玉	森田 茂	山崎 順子
千葉	山田 俊弘	
東京	岡野内 正	渡部 愛理
神奈川	鳥山 孟郎	
愛知	杉山 尚子	
京都	高橋 千夏	
島根	桧垣 友孝	
福岡	川口 有紀	

<継続会員>

北海道	佐藤 健一	
岩手	佐藤 重幸	
宮城	千葉 大健	
埼玉	北 俊夫	鈴木 優子
千葉	石川智嘉子	
東京	富 安正	中野真理子
	深津 高子	本田 栄一
	元岡 蓉子	若松悠紀子
神奈川	佐々木美恵子	長瀬 修
静岡	伊藤美智代	
大阪	長谷川和子	吉田 正
神戸	小池 恵子	
佐賀	千布 浩行	
熊本	古賀 純子	